

精神科領域専門医研修プログラム

- 専門研修プログラム名：弘前大学病院連携施設 精神科専門医研修プログラム

- プログラム担当者氏名：古郡 規雄
住 所：〒036-8562 青森県弘前市本町 53
電話番号：0172- 39-5066
F A X：0172-39-5067
E-m a i l：yasufuru@hirosaki-u. ac. jp

- 専攻医の募集人数：（ 15 ）人

- 応募方法：
履歴書を下記宛先に送付の上、面接申し込みを行う。
宛先：〒036-8562 青森県弘前市本町 53
弘前大学医学部附属病院 神経科精神科
TEL：
0172-39-5066
FAX：
0712-39-5067
担当者：古郡規雄（総医長）

- 採用判定方法：
科長・総医長が履歴書記載内容と面接結果に基づき厳正な審査を行い、採用の適否を判断する。

I 専門研修の理念と使命

1. 専門研修プログラムの理念（全プログラム共通項目）
精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。

2. 使命（全プログラム共通項目）
患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

3. 専門研修プログラムの特徴
弘前大学医学部神経精神医学講座は講座開設以来 80 年を超える歴史と伝統をもち、臨床から研究に至る幅広い領域において精神医学の発展に大きな功績を残してきた。現在も日本の精神医療を牽引する存在として、医局員は幅広い領域で活躍している。弘前大学病院専門医研究プログラムで

は、精神科医専門医として総合的な知識とスキルを身につけるだけでなく、てんかんや児童思春期に特化している点が他の施設群にはない弘前大学特有の研修となっている。

基幹病院となる弘前大学の神経科精神科は、41床のベッドを有し、閉鎖病棟、隔離室、観察室も十分なスペースを確保しており、難治例、身体合併症例などほとんどのケースに対応している。特にてんかん、児童思春期は日本を代表する医療施設となっており、豊富な症例と研究に接することができる。専攻医は入院患者の主治医となり、教員の指導を受けながら、看護、心理、リハビリテーションの各領域とチームを組み、各種精神疾患に対し生物学的検査・心理検査を行い、薬物療法、精神療法、修正型電気療法などの治療を柔軟に組み合わせ最善の治療を行っていく。研修の過程でほとんどの精神疾患、治療についての基礎的な知識を身につけることが可能である。

青森県立中央病院、つがる総合病院、十和田市立中央病院、八戸市立市民病院といった青森県内の主要医療機関（総合病院）の精神科に加え、触法患者が豊富な青森県立つくしが丘病院、mECTセンターのある弘前愛成会病院や北東北てんかんセンターを併設する湊病院といった県内主要3市にある単科精神科病院が連携施設に属しており、専攻医はこれらの施設をローテーションしながら研鑽を積み、臨床精神科医としての実力を向上させつつ、専門医を獲得することが可能である。さらに、精神保健行政機関とも連携しており、希望に応じてこれらの施設での研修を行うことにより、さらに幅広い知識を習得することが可能である。

精神医学は、極めて幅広い領域を包含しており、そこには生物学的、心理学的、社会的な次元に加え、実存的・哲学的問題も関与している。複雑を極める精神現象を理解して、治療するため、乳幼児から児童・思春期、壮年期、老年期に至る人間のライフステージすべてに研究のメスを入れ、アプローチも脳科学、分子遺伝学、精神病理学、心理学、社会学など多岐に亘る。この多様性をもって、謎に包まれた心と脳の神秘に肉薄することこそが弘前大学神経科精神科の特色である。

II. 専門研修施設群と研修プログラム

1. プログラム全体の指導医数・症例数

- プログラム全体の指導医数： 44 人
- 昨年一年間のプログラム施設全体の症例数

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	5216	1557
F1	688	313
F2	6910	2304
F3	6173	954
F4 F50	4939	270
F4 F7 F8 F9 F50	2971	341
F6	260	45
その他	3239	183

2. 連携施設名と各施設の特徴

A 研修基幹施設

- ・施設名：弘前大学医学部附属病院
- ・施設形態：大学病院
- ・院長名：福田眞作
- ・プログラム統括責任者氏名：中村和彦
- ・指導責任者氏名：古郡規雄
- ・指導医人数：(4) 人
- ・精神科病床数：(41) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	143	4
F1	18	5
F2	405	56
F3	425	66
F4 F50	464	22
F4 F7 F8 F9 F50	340	27
F6	41	3
その他	560	17

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は 636 床を有する大学病院であり、精神科も 41 床の病棟を有している。高度専門医療機関として、主に難治性の症例を中心に統合失調症（F2）、気分障害（F3）、神経症性障害（F4）などの治療にあたっている。さらに、児童思春期とてんかんでは日本を代表する施設であり、専門性の極めて高い専門外来を持っている。また認知症、身体合併症治療、リエゾン・コンサルテーションなど精神科臨

床を幅広く経験できることも特徴である。臨床研究の習得にも力を注いでおり、国際一流誌の抄読会やリサーチカンファレンスを定期的に開催している。

B 研修連携施設

① 施設名：つがる西北五広域連合つがる総合病院

- ・施設形態：公的総合病院
- ・院長名：高杉滝夫
- ・指導責任者氏名：坂本卓子
- ・指導医人数：(1)人
- ・精神科病床数：(44)床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	568	35
F1	32	4
F2	553	71
F3	769	115
F4 F50	282	14
F4 F7 F8 F9 F50	12	3
F6	4	0
その他	749	18

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は438床を有する総合病院であり、44床の精神科病棟を有している。身体合併症を併存する精神疾患を中心に、双極性感情障害、認知症、統合失調症、思春期症例、他科入院中のせん妄、精神腫瘍医学領域などを含む、多様な疾患、症例を経験し、入院治療の実践経験を積むことができる。

又当科は認知症医療センター業務を行っており、認知症の診断、治療、マネージメントに関しても実践的な経験を積むことが可能である

② 施設名：青森県立つくしが丘病院

- ・施設形態：公的病院
- ・院長名：堀内 雅之
- ・指導責任者氏名：堀内 雅之
- ・指導医人数：(3)人
- ・精神科病床数：(230)床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	191	20
F1	19	3

F2	879	200
F3	395	68
F4 F50	314	25
F4 F7 F8 F9 F50	150	4
F6	26	7
その他	102 (てんかん)	4 (てんかん)

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は230床を有する青森県病院局所属の県立単科精神科病院である。急性期入院治療を主とした包括的精神科治療の場で、統合失調症を中心として地域精神科救急、訪問看護など豊富な症例を経験できる臨床を経験し、複数の実際の臨床経験豊富な精神科医と意見を交わし研鑽を積むことができる。また、青森県県立中央病院での外来やリエゾン臨床、精神保健センター、弘前大学医学部精神科、保健所、児童相談所などでの連携、交流研修も可能で、多彩な場面での精神科医師としての経験とあり方を学ぶことができる。

研修医の希望を最大限に受け入れ、資格取得のみならず医師（一人の人間）として生きていく将来にも大きな糧となる研修期間を過ごしていただきたい。

③ 施設名：一般財団法人愛成会 弘前愛成会病院

- ・施設形態：一般財団法人の設置する精神科病院
- ・院長名：田崎博一
- ・指導責任者氏名：田崎博一
- ・指導医人数：（ 4 ）人
- ・精神科病床数：（ 328 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	563	171
F1	54	21
F2	738	394
F3	510	93
F4 F50	320	11
F4 F7 F8 F9 F50	219	21
F6	16	2
その他	230	6

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は328床の津軽二次保健医療圏精神科医療の中核的役割を担う精神科病院である。病棟は精神科急性期治療病棟、認知症治療病棟、精神療養病棟（3棟）及び精神一般の6病棟から構成される。

地域の精神科救急医療を担い、救急輪番制度への対応に留まらず、365日救急対応できる体制を取っている。救急医療における非指定医業務に対する指定医のバックアップ、指導体制も万全を期している。

外来患者の疾患構成は地域の精神医療ニーズを反映しており、統合失調症等の精

神病、気分障害、認知症を含む器質性疾患、神経症性障害や発達障害、児童青年期など多彩である。外来も多職種で対応し、精神保健福祉士による情報収集や社会資源とのマッチング、心理職による検査や心理治療なども常時、行われている。

入院診療においては急性期からいわゆる重度慢性期までさまざまな病態、病期の治療を研修することができる。特に統合失調症、気分障害、認知症関連の病態が多い。院内部門として麻酔機器等を完備したECTセンターを設置し、年間約400件のm-ECTを実施している。麻酔科医としての経験を有する医師による指導により、研修することができる。また、難治性統合失調症に対するクロザピン治療も行っている。

院内部門として在宅生活支援センターを設置し、精神障害者の退院支援、地域生活支援に積極的に取り組んでいる。行政機関、地域の社会福祉施設等との連携も円滑であり、地域連携、多職種チーム医療の実践的研修が可能である。グループホーム運営等を行う関連法人があり、有機的連携の下に、地域移行・地域定着支援事業を進めている。

県から認知症疾患医療センターの指定を受け、認知症医療においても中核的な機能を果たしている。一般医療機関、介護・福祉機関との連携が機能しており、認知症の診断と治療、BPSDの治療等に加え、地域の専門職や住民への研修・啓発活動も行っている。認知症医療における予防・啓発、早期発見、診断・治療（通院及び入院）といった総合的な研修が可能である。

院内部門としてメンタルヘルス支援センターを設置し、企業・事業所におけるメンタルヘルス活動を支援している。ストレスチェック制度においてはストレスチェックから医師による面接指導まで制度全般にわたり対応できる体制を整備した。専門医研修においては産業精神保健の基礎から実践までの全般を指導する。希望があれば研修期間中に日本医師会認定産業医の取得が可能である。

毎月1回、国内から外部講師を招聘して「精神医学セミナー」を開催し、地域の精神科医等に研修、研鑽の機会を提供している。これは、医師再教育事業として評価されている。

④ 施設名：高松病院

- ・施設形態：民間病院
- ・院長名：高松幸作
- ・指導責任者氏名：海老名恵
- ・指導医人数：（ 7 ）人
- ・精神科病床数：（ 239 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	951	437
F1	63	40
F2	226	105
F3	334	49
F4 F50	290	13
F4 F7 F8 F9 F50	15	0

F6	2	0
その他	71	4

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は239床を有する単科精神科病院である。当院では急性期治療病棟、精神療養病棟、認知症治療病棟を有し、急性期から慢性期、認知症疾患まで幅広く対応しております。特に認知症に関しては、認知症疾患医療センターの指定を受け、認知症専門外来を開設し、認知症の前段階（軽度認知障害）から重度の認知症まで幅広く治療に関わることができる。認知症の行動・心理症状の治療のため入院となる症例では、地域の医療機関、行政、家族会などの関係機関と密に連携することで、入院から退院後の生活支援まで学ぶことができる。また、当院では毎週医師を含めた多職種職員が集まり診断会議を開催し、新患症例の診断・治療について検討している。自分が携わっていない様々な症例に触れることができ、多くの診断、治療方針について習得することができる。さらに、CT、MRIを完備し、月1回の画像カンファレンスを開催しているため、画像診断についても研鑽を積むことができる。身体合併症を有する症例に関しても、常勤の内科医と連携しながら積極的に対応しており、精神疾患のみならず内科的な知識の習得もできる。

⑤ 施設名：市立函館病院

- ・施設形態：公的総合病院
- ・院長名：木村純
- ・指導責任者氏名：安藤嘉朗
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 50 ）床（ただし、現在休床中）
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	108	0
F1	12	0
F2	46	0
F3	68	0
F4 F50	30	0
F4 F7 F8 F9 F50 児童	3	0
F6	4	0
その他	41	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は634床を有する総合病院であり、精神科は外来のみを有している。当科は、地域の基幹病院で急性期型の総合病院の無床精神科として、他科からの診察依頼を中心に、精神科疾患全般にわたる診療を行っている。他科からのコンサルテーション中心の診療であるが、当院は当科のほかに25科の診療科があり、高度救命救急センターもあり、診療対象は多彩で、精神疾患全般にわたる研修が

可能である。また、特にチーム医療、プライマリーケアで遭遇する精神症状、身体疾患に合併する精神症状について重点的に研修ができる。診療対象は、精神病圏の疾患、神経症圏の疾患、身体的基盤のある精神疾患、児童思春期から老年期まで、精神科全般にわたっているが、特に、総合病院の精神科として、①身体科治療中の患者のコンサルテーション・リエゾン・サービス、せん妄や不安・抑うつ患者への対応、精神科合併症を有する患者の精神疾患治療、②救命救急センターを受診した患者の精神疾患への対応、自殺企図患者への対応、③がん患者の緩和ケア診療、④老年期患者の診断と治療については集中的に経験ができる。

認知症性疾患については、自院で頭部 MRI 検査、脳血流 SPECT 検査、DAT スキャン、MIBG 心筋シンチ、超音波検査ができ、画像検査結果については放射線科医による読影もあり、鑑別診断のために神経内科・脳神経外科との連携も可能な恵まれた環境にあり、先進的・学際的な研修が可能である。臨床心理士による複雑な心理検査も可能で、認知症の診断に関しては最先端の研修が可能である。BPSD への対応へのニーズも高く、多数の経験が可能である。院内で行われる多数の勉強会、定期的な症例検討会・文献抄読会（ドイツ語論文を含む）への参加も可能である。

- ⑥ 施設名：十和田市立中央病院
- ・施設形態：公立病院
 - ・院長名：丹野 弘晃
 - ・指導責任者氏名：谷内森 康二
 - ・指導医人数：（ 2 ）人
 - ・精神科病床数：（ 50 ）床
 - ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	150	5
F1	85	24
F2	420	54
F3	1047	96
F4 F50	470	17
F4 F7 F8 F9 F50	120	3
F6	18	2
その他	137	7

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は 379 床を有する総合病院であり、50 床の精神科病棟を有している。地域の中核を担う総合病院として、精神科急性期治療病棟（平均在院日数 50 日程度）として運用しており、急性期・救急・リエゾンを中心に児童思春期を含めた幅広いライフサイクルを経験できる。気分障害圏を中心に診療しているが、経験が困難とされる、児童思春期や器質性精神障害等の医療保護入院症例も容易に経験可能。措置入院、医療観察法の症例も経験可能である。総合病院ならではのリエゾン、全科当直、日常業務での他科との連携、電子カルテ医療を通して一般医療の枠組みで精神医療が体験できる。MRI・スペクト・MIBG シ

ンチ等を利用した認知症の精査が可能である

地域連携活動（地域での保健相談、アウトリーチ活動、認知症の啓蒙活動『じゅんちゃん一座』）を活発に行っている。

⑦ 施設名： 社会医療法人 松平病院

- ・施設形態： 単科精神科病院
- ・院長名： 北條 敬
- ・指導責任者氏名： 北條 敬
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 182 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	15	9
F1	6	1
F2	446	220
F3	184	26
F4 F50	96	5
F4 F7 F8 F9 F50	0	0
F6	4	2
その他	44	2

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は182床を有する単科精神科病院である。統合失調症が多く、患者年齢層が比較的若い。福祉施設（就労継続支援B型・多機能型サービス事業所・グループホーム等）が充実しており、自立支援、社会復帰に力を入れている。アニマルセラピーをはじめ、精神科リハビリテーションや家族心理教育に取り組んでいる。

⑧ 施設名：医療法人社団聖康会 聖康会病院

- ・施設形態：単科精神科病院
- ・院長名：齋藤 文男
- ・指導責任者氏名：齋藤 文男
- ・指導医人数：（ 3 ）人
- ・精神科病床数：（ 88 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	79	12
F1	10	1
F2	118	72
F3	132	15

F4 F50	150	2
F4 F7 F8 F9 F50	8	1
F6	7	4
その他	152	2

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は 88 床を有する単科精神科病院である。津軽地区の広範囲からの受診があり、統合失調症、気分障害、神経症性障害などを中心に幅広く診療することができる。高齢者については在宅および施設からの来院も多く、高齢者の地域における生活状況を含めた広い視野からの診療が可能である。訪問看護、デイケアも実施しており、診察室以外の地域に住む患者層に接することができる。また、てんかん症例に関しては診断、治療、脳波判読を系統的に指導することができる。

⑨ 施設名：社団法人慈恵会 青い森病院

- ・施設形態：精神科病院
- ・院長名：平野 敬之
- ・指導責任者氏名：平野 敬之
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 160 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	86	99
F1	2	6
F2	37	95
F3	82	10
F4 F50	32	4
F4 F7 F8 F9 F50	44	19
F6	1	1
その他	7	3

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は精神療養病棟 110 床と認知症治療病棟 50 床を有する単科精神科病院である。器質性精神障害と統合失調症を中心とした診療を行っている。修正型電気けいれん療法や精神科作業療法を実施しているほか、精神科救急医療システムに参加し、輪番病院として夜間の救急受け入れを行っている。

⑩ 施設名：青森県立精神保健福祉センター

- ・施設形態：県立
- ・院長名：田中 治
- ・指導責任者氏名：田中 治
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 0 ）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	0	0
F1	1	0
F2	5	0
F3	9	0
F4 F50	16	0
F4 F7 F8 F9 F50	28	0
F6	11	0
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当施設は県立の精神保健センターであり、地域の行政機関である。成人の発達障害を対象としてショート・ケアを行っているため、大人の発達障害を中心とした診療を行っている。大規模デイ・ケアを実施しており、社会復帰・就労支援プログラムを行っている。精神疾患全般に対する治療、相談支援を行っている。

⑪ 施設名：八戸市立市民病院

- ・施設形態：公的総合病院
- ・院長名：三浦 一章
- ・指導責任者氏名：熊谷 輝
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 50 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	76	18
F1	31	11
F2	258	51
F3	225	35
F4 F50	398	18
F4 F7 F8 F9 F50	505	24
F6	24	5
その他	105	10

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は 584 床を有する総合病院であり、50 床の精神科病棟を有している。精神科病棟は一般病棟に併設された形の独立病棟で、指定病床はなく、個別開放処遇を取り入れた男女混合閉鎖病棟の構造となっている。当院における精神神経科の位置付けは、「地域医療の 3 次救急基幹病院に設置された小規模有床精神科（地域精神科救急システム輪番日以外でも救急対応）」であり、対象は児童・青年期、成人期、老年期の幅広い年齢層にわたり、その様々な精神障害の理解と治

療に当たっている。また、地域の精神保健においては、八戸保健所と八戸児童相談所の嘱託業務を担い、緩和ケアや院内外のリエゾン事例はもちろん、他医療機関と緊密に連携して精神障害者の身体合併症事例を積極的に受け入れている。

⑫ 施設名：医療法人社団 清泉会 布施病院

- ・施設形態：医療法人病院
- ・院長名：布施 泉
- ・指導責任者氏名：林本 章
- ・指導医人数：(2) 人
- ・精神科病床数：(120) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	620	211
F1	39	20
F2	485	150
F3	241	14
F4	224	10
F5	0	0
F6	8	0
F7	48	9
F8	14	2
F9	17	0
その他	66	3

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は120床の単科精神科病院である。外来は1日平均86人。児童思春期、成人、老年期まですべての年代の精神疾患に対応している。疾患としては統合失調症圏、気分障害圏、認知症圏、神経症圏が中心であるが、近年は認知症の増加が目立っている。そのほか発達障害、アルコール依存症、パーソナリティ障害等の患者も幅広く来院する。コメディカルスタッフが充実し、作業療法・心理教育・デイケア・訪問看護等を積極的に行っておりチーム医療を経験することができる。

⑬ 施設名：医療法人 清照会 湊病院

- ・施設形態：精神科病院
- ・院長名：工藤 清太郎
- ・指導責任者氏名：工藤 清次郎
- ・指導医人数：(3) 人
- ・精神科病床数：(278) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
----	-----------	-----------

F0	114	97
F1	8	23
F2	32	124
F3	95	49
F4 F50	96	3
F4 F7 F8 F9 F50	34	9
F6	4	4
その他	89	22

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、精神科急性期治療病棟を含む 278 床の精神科病床に加え、50 床の一般科病床を有する精神科複合病院である。主に内因性精神病を主とした各種精神疾患の急性期対応を中心に、身体疾患を合併している精神疾患患者の治療やリエゾン症例、認知症周辺症状を始めとした老年期の精神疾患など、幅広い臨床研修を履修することができる。

また、精神科救急医療システムや措置入院症例など、地域における救急医療への従事を通じてその対応を学ぶと同時に、精神保健行政機関と連携しての初期介入から退院、地域移行まで一貫した実践経験を積むことが可能である。

更に、修正型電気けいれん療法の実施、薬剤抵抗性統合失調症に対するクロザピンによる薬物療法の導入、アルコール依存やてんかんなど、精神科各専門分野の研修を幅広く経験できることや、同法人内の社会復帰施設や就労支援事業所と連携し総合的な社会復帰支援を行えることも当院の大きな特徴である。

⑭ 施設名：医療法人 芙蓉会 芙蓉会病院

- ・施設形態：精神科病院
- ・院長名：村上 淳
- ・指導責任者氏名：村上 拓也
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 354 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	235	145
F1	127	61
F2	586	143
F3	380	61
F4 F50	150	20
F4 F7 F8 F9 F50	878	50
F6	42	6
その他	21	3

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、精神科急性期治療病棟を含む 354 床の単科精神科病院である。主に内因性精神病を主とした各種精神疾患の急性期対応を中心に、身体疾患を合

併している精神疾患患者の治療やリエゾン症例、認知症周辺症状を始めとした老年期の精神疾患など、幅広い臨床研修を履修することができる。特に児童思春期症例が豊富、デイケアが豊富（大規模、児童思春期、シルバーの3つある）、長期入院者の退院促進を積極的に行っている、地域に根差した医療の展開、措置入院症例も豊富という特徴をもつ。

⑮ 施設名：青森県立中央病院

- ・施設形態：公的総合病院
- ・院長名：藤野安弘
- ・指導責任者氏名：鈴木克治
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 0 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	156	0
F1	9	0
F2	135	0
F3	140	0
F4 F50	527	0
F4 F7 F8 F9 F50 児童	25	0
F6	18	0
その他	150	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は青森県の急性期型の基幹病院で、694 床を有する総合病院である。精神科は外来機能のみを有している。当院の精神科医療体制は特定診療部門に配置され一般精神科診療を受け持つメンタルヘルス科と、緩和ケアセンターに配置され、がん診療に関連する心理社会的問題に取り組む腫瘍心療科で構成されている。また、平成 27 年度から精神科リエゾンチーム加算を算定しており、充実したリエゾン活動も展開している。平成 25 年度から臨床心理士を、平成 26 年度から精神保健福祉士を正職員として雇用開始している。平成 29 年度からは全国的にも有数の規模と思われる臨床心理士 11 名（うち正職員 9 名）を擁する臨床心理士支援部が発足し、身体疾患に悩む患者の心理支援の実践をより一層充実させる。また、医療連携部には精神保健福祉士 3 名（うち正職員 2 名）が在籍し、心身に障害を抱える患者の社会資源利用促進業務、地域の精神科病床への転院促進業務等を行っている。リエゾン活動は多職種でのチーム介入を原則としており、身体科の外来・病棟、救命救急センター、緩和ケアチーム等からの依頼に対応し院内を縦横無尽に駆け回っている。

外来診療で扱われる疾患は、身体表現性障害、適応障害などの神経症圏がもっとも多く、気分障害、統合失調症を含めたオーソドックスな外来治療を実践している。認知症やてんかんは、神経内科と手分けして診療している。入院症例へのリエゾン介入では、せん妄への介入依頼が多く、他に身体合併症を有する精神障害者への対応、がん患者や慢性疾患、重症の身体疾患を患う方々の不

安・抑うつ・不眠などの症状への対応などを行っている。救命救急センターでは自殺企図後の対応を中心に介入している。

- ⑩ 施設名：医療法人青仁会青南病院
 ・施設形態：医療法人
 ・院長名：深澤 隆
 ・指導責任者氏名：深澤 隆
 ・指導医人数：（ 3 ）人
 ・精神科病床数：（199）床
 ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	377	139
F1	85	57
F2	365	271
F3	337	154
F4 F50	161	67
F4 F7 F8 F9 F50	92	137
F6	5	4
その他	0	21

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は199床の八戸二次保健医療圏精神科医療の中核的役割を担う精神科病院である。病棟は精神一般病棟 52床、精神科療養病棟 87床（2単位）認知症治療病棟 I 60床、の4病棟から構成される。また青森県指定である「認知症疾患医療センター」を併設しており地域に根差した認知症専門医療機関としての役割を果たしている。外来患者の疾患構成として統合失調症等の精神病、気分障害、認知症を含む器質性疾患、神経症性障害や発達障害などである。外来も多職種で対応し、精神保健福祉士による情報収集、社会資源（各種サービス）の調整、心理職による検査も行われている。入院診療においては急性期から重度且つ慢性期までさまざまな病態、病期の治療を研修することができる。特に統合失調症、気分障害、アルコール依存症、認知症関連の病態が多い。

- ⑪ 施設名：一部事務組合下北医療センター むつ総合病院
 ・施設形態：公的総合病院
 ・院長名：橋爪 正
 ・指導責任者氏名：藤井 学
 ・指導医人数：（ 1 ）人
 ・精神科病床数：（ 54 ）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	374	42
F1	34	4
F2	572	69
F3	322	32
F4 F50	619	10
F4 F7 F8 F9 F50	54	1
F6	17	3
その他	258	19

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は434床を有する総合病院であり、54床の精神科病棟を有している。人口約9万人の医療圏における唯一のメンタルヘルス科であり、統合失調症、双極性障害、神経症圏をはじめとした幅広い疾患、症例を経験し、入院治療の臨床経験を積むことができる。認知症について、診断、治療、随伴症状をはじめとした急性期管理をはじめとして臨床経験を積むことが可能である。平成29年7月より認知症疾患医療センターを開設予定である。

⑱ 施設名：医療法人社団来蘇圓会 黒石あけぼの病院

- ・施設形態：医療法人社団が設置する精神科病院
- ・院長名：藤田康文
- ・指導責任者氏名：古郡華子
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 193 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	331	55
F1	15	6
F2	169	15
F3	70	14
F4 F50	47	5
F4 F7 F8 F9 F50	86	12
F6	2	0
その他	62	2

・施設としての特徴

当院は黒石市を中心として南津軽郡一円を診療圏としている。193床で精神一般病棟（閉鎖）・特殊疾患治療病棟・認知症治療病棟・精神療養病棟を有している。またデイケア棟を有しており、一日20名程度が通所している。津軽地域

の精神科救急の一翼を担っており、救急輪番制度に参加している。知的障害者施設・授産施設や養護・特別養護老人ホームなど地域で多数の施設の嘱託医を担当している。その他地域住民への啓蒙活動や看護学校講師なども担当している。

当院は長く慢性期治療が中心であり、現在でも入院患者の7割程度が1年以上の在院である。しかし近年は新規入院患者の6割程度が3ヶ月以内に退院しており、時代の流れで入院期間短縮の傾向が顕著である。入院は地域の精神医療ニーズを反映して認知症患者が多いが、統合失調症・双極性障害・心因性疾患などの急性期治療も行っている。認知症治療においては介護・精神科治療・内科治療の三つを重視している。当院には内科常勤医がおり、精神科病院として十分な内科治療を提供可能である。精神保健福祉士や作業療法士などコメディカルの体制が厚く、地域の行政機関や他科医療機関との関係も良好であり多職種チームによる地域医療連携が行われている。

研修としては認知症を中心に様々な疾患の急性期から慢性期まで経験可能である（ただし児童思春期・薬物依存症例は乏しい）。またてんかん診療に長年実績のある医師が常勤しており、希望があれば脳波判読などの研修も可能である。

⑱ 施設名：大館市立総合病院

- ・施設形態：公的総合病院
- ・院長名：舘岡 博
- ・指導責任者氏名：小山智教
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 60 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	59	49
F1	35	26
F2	350	71
F3	328	38
F4 F50	313	21
F4 F7 F8 F9 F50	346	23
F6	6	2
その他	264	29

・施設としての特徴

当院は一般病床375床、精神科病棟60床を有している。平成28年10月に認知症疾患医療センターをオープンし、地域の認知症診療拠点として機能している。またがん診療拠点病院でもあり緩和ケアチームに属し、豊富な治療経験を積むことができる。さらにはコンサルテーション・リエゾン医学ではせん妄を主とした多彩な器質性精神疾患についての症例を経験する事ができる。その他、精神科救急はもちろん、難治性統合失調症患者に対するクロザピンによる薬物治療や修正型電気けいれん療法も実施可能であるなど、地域の重篤な患者を積極的に受け入れている。

⑳ 施設名：東台病院

- ・施設形態：医療法人

- ・ 院長名：畠山光徳
- ・ 指導責任者氏名：畠山光徳
- ・ 指導医人数：（ 1 ）人
- ・ 精神科病床数：（ 150 ）床
- ・ 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	20	9
F1	3	0
F2	85	143
F3	80	19
F4 F50	40	3
F4 F7 F8 F9 F50	11	7
F6	0	0
その他	52	0

- ・ 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、当院は大館市を中心として北秋田地域を診療圏としている。精神科急性期治療病棟を含む 150 床の単科精神科病院である。主に内因性精神病を主とした各種精神疾患の急性期対応を中心に、身体疾患を合併している精神疾患患者の治療や認知症周辺症状を始めとした老年期の精神疾患など、幅広い臨床研修を履修することができる。特にデイケアが豊富、長期入院者の退院促進を積極的に行っている、地域に根差した医療の展開する症例が豊富という特徴をもつ。

3. 研修プログラム

1) 年次到達目標

専攻医は精神科領域専門医制度の研修手帳にしたがって専門知識を習得する。研修期間中に以下の領域の知識を広く学ぶ必要がある。1. 患者及び家族との面接、2. 疾患概念の病態の理解、3. 診断と治療計画、4. 補助検査法、5. 薬物・身体療法、6. 精神療法、7. 心理社会的療法など、8. 精神科救急、9. リエゾン・コンサルテーション精神医学、10. 法と精神医学、11. 災害精神医学、12. 医の倫理、13. 安全管理。各年次毎の到達目標は以下の通りである。

到達目標

1年目：基幹病院または連携病院で、指導医と一緒に統合失調症、気分障害、器質性精神障害の患者等を受け持ち、面接の仕方、診断と治療計画、薬物療法及び精神療法の基本を学び、リエゾン・精神医学を経験する。とくに面接によって情報を抽出し診断に結びつけるとともに、良好な治療関係を構築し維持することを学ぶ。精神療法の習得を目指し認知行動療法、精神分析・精神力動療法、森田療法のいずれかのカンファレンス、セミナーに参加する。院内研究会や学会で発表・討論する。

2年目：基幹病院または連携病院で、指導医の指導を受けつつ、自立して、面接の仕方を深め、診断と治療計画の能力を充実させ、薬物療法の技法を向上させ、精神療法として認知行動療法と力動的な精神療法の基本的考え方と技法を学ぶ。精神科救急に従事して対応の仕方を学ぶ。神経症性障害および種々の依存症患者の診断・治療を経験する。ひきつづき精神療法の修練を行う。院内研究会や学会で発表・討論する。

3年目：指導医から自立して診療できるようにする。連携病院はより幅広い選択肢の中から専攻医の志向を考慮して選択する。認知行動療法や力動的な精神療法を上級者の指導の下に実践する。心理社会的療法、精神科リハビリテーション・地域精神医療等を学ぶ。児童・思春期精神障害およびパーソナリティ障害の診断・治療を経験する。外部の学会・研究会などで積極的に症例発表する。

2) 研修カリキュラムについて

研修カリキュラムは、「専攻医研修マニュアル」（別紙）、「研修記録簿」（別紙）を参照。

3) 個別項目について

倫理性・社会性

基幹施設において他科の専攻医とともに研修会が実施される。コンサルテーションリエゾンを通して身体科との連携を持つことによって医師としての責任や社会性、倫理観などについても多くの先輩や他の医療スタッフからも学ぶ機会を得ることができる。

① 学問的姿勢

専攻医は医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽自己学習することが求められる。すべての研修期間を通じて与えられた症例を院内の症例検討会で発表することを基本とし、その過程で過去の類似症例を文献的に調査するなどの姿勢を心がける。その中で特に興味ある症例については、地方会等での発表や積極的に国際誌などへの投稿を進める。

② コアコンピテンシーの習得

研修期間を通じて、1) 患者関係の構築、2) チーム医療の実践、3) 安全管理、4) 症例プレゼンテーション技術、5) 医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解、を到達目標とし、医師としてのコアコンピテンシーの習得を目指す。さらに精神科診断面接、精神療法、精神科薬物療法、リエゾンコンサルテーションといった精神科医特有のコンピテンシーの獲得を目指す。

③ 学術活動（学会発表、論文の執筆等）

基幹施設において臨床研究、基礎研究に従事しその成果を学会や論文として発表する。また、連携施設において臨床研究を継続する。

④ 自己学習

各病院に教育用の図書やDVDが充実しているため、それらを用いて積極的に自己学習できる。また、読んでおくべき論文も準備している。

4) ローテーションモデル

典型的には1年目に基幹病院（弘前大学病院）をローテートし、精神科医としての基本的な知識を身につける。2～3年目には総合病院精神科（つがる総合病院、函館市立総合病院、十和田市立総合病院、八戸市民病院、青森県立中央病院、むつ総合病院、大館市立総合病院）、公的な単科精神科病院（青森県立つくしが丘病院、弘前愛成会病院）を各1年ずつローテートし、身体合併症治療、難治・急性期症例、児童症例、認知症症例を幅広く経験し、精神療法、薬物療法を主体とする治療手技、生物学的検査・心理検査などの検査手法、精神保健福祉法や社会資源についての知識と技術を深めていく。これら3年間のローテート順については、本人の希望に応じて柔軟な対応が可能である。さらに、今回記載した連携施設以外に精神保健行政機関（青森県立精神保健福祉センター）、私的単科精神科病院（高松病院、聖康会病院、青い森病院、布施病院、松平病院、湊病院、青南病院、黒石あけぼの病院、東台病院）、などの各専門機関との連携も予定しており、本人の希望に応じて、多彩なローテートパターンが可能である。この場合、1・2年目に基本となる基幹病院（弘前大学病院）、総合病院（つがる総合病院、函館市立総合病院、十和田市立総合病院、八戸市民病院、青森県立中央病院、むつ総合病院、大館市立総合病院）、公的単科精神科病院（青森県立つくしが丘病院、弘前愛成会病院）の中から2ヶ所を各1年ずつ、3年目は、上述の専門機関の中から本人の志向にあわせた研修先を選定する。主なローテーションパターンについて、別紙1に示す。

5) 研修の週間・年間計画
別紙2と別紙3を参照。

4. プログラム管理体制について

・プログラム管理委員会

中村和彦
古郡規雄
斉藤まなぶ
佐藤靖
田崎博一
坂本卓子
堀内雅之
谷地森康二
落合聖子
大里絢子
海老名恵
安藤嘉朗
北條敬
齋藤文男
平野敬之
田中治
熊谷輝
林本章
工藤清次郎
村本幸栄
鈴木克治
深澤隆
藤井学
古郡華子
小山智教
畠山光徳

・プログラム統括責任者

中村和彦

・連携施設における委員会組織

各連携病院の指導責任者および実務担当の指導医によって構成される。

5. 評価について

1) 評価体制

弘前大学医学部附属病院：古郡規雄

弘前大学医学部附属病院：落合聖子（看護師）

弘前大学大学院医学研究科：大里絢子（心理士）

市立函館病院精神神経科：安藤嘉朗

つがる総合病院：坂本卓子

青森県立つくしが丘病院：庭山英俊
弘前愛成会病院：片貝宏
高松病院：海老名恵
十和田市立中央病院：谷地森康二
松平病院：北條敬
聖康会病院：齋藤文男
青い森病院：平野敬之
青森県立精神保健福祉センター：田中治
八戸市立市民病院：熊谷輝
布施病院：林本章
湊病院：工藤清次郎
芙蓉会病院：村上拓也
青森県立中央病院：鈴木克治
青南病院：深澤隆
むつ総合病院：藤井学
黒石あけぼの病院：藤田康文
大館市立総合病院：小山智教
東台病院：畠山光徳

当該研修施設の指導責任者は専攻医の知識、技術、態度のそれぞれについて、メディカルスタッフの意見を聞き、年次毎の評価を含める。具体的には各施設の看護師、精神保健福祉士、心理士などが、6ヶ月ごとに専攻医の態度やコミュニケーション能力について評価し、その結果を勘案してプログラム統括責任者がフィードバックを行う。評価方法は以下に示すように5段階評価とする。総括的评价もその結果に基づいて、プログラム管理委員会が行う。

(評価方法)

患者に対する態度と面接技術：0・1・2・3・4
家族に対する態度とコミュニケーション：0・1・2・3・4
メディカルスタッフに対する態度とコミュニケーション：0・1・2・3・4
診療に対する積極的姿勢：0・1・2・3・4
真摯に自己研鑽を行う態度：0・1・2・3・4
など

2) 評価時期と評価方法

- ・ 3 か月ごとに、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し、その後の研修方法を定め、研修プログラム管理委員会に提出する。
- ・ 研修目標の達成度を、当該研修施設の指導責任者と専攻医がそれぞれ6ヶ月ごとに評価し、フィードバックする。
- ・ 1年後に1年間のプログラムの進行状況並びに研修目標の達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。またその結果を統括責任者に提出する。
- ・ その際の専攻医の研修実績および評価には研修記録簿／システムを用いる。

3) 研修時に則るマニュアルについて

「研修記録簿」(別紙)に研修実績を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受ける。総括的評価は精神科研修カリキュラムに則り、少なくとも年1回おこなう。

弘前大学病院にて専攻医の研修履歴(研修施設、期間、担当した専門研修指導医)、研修実績、研修評価を保管する。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管する。プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導医マニュアルを用いる。

- 専攻医研修マニュアル(別紙)

- 指導医マニュアル(別紙)

・ 専攻医研修実績記録

「研修記録簿」に研修実績を記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が形成的評価をおこない記録する。少なくとも年に1回は形成的評価により、指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的自己評価をおこなうこと。研修を修了しようとする年度末には総括的評価により評価が行われる。

・ 指導医による指導とフィードバックの記録 専攻医自身が自分の達成度評価をおこない、指導医も形成的評価をおこない記録する。少なくとも年1回は指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的評価をおこない評価者は「劣る」、「やや劣る」の評価をつけた項目については必ず改善のためのフィードバックをおこない記録し、翌年度の研修に役立たせる。

6. 全体の管理運営体制

1) 専攻医の就業環境の整備(労務管理)

各施設の労務管理基準に準拠する。

2) 専攻医の心身の健康管理

健康管理基準に準拠する。

3) プログラムの改善・改良

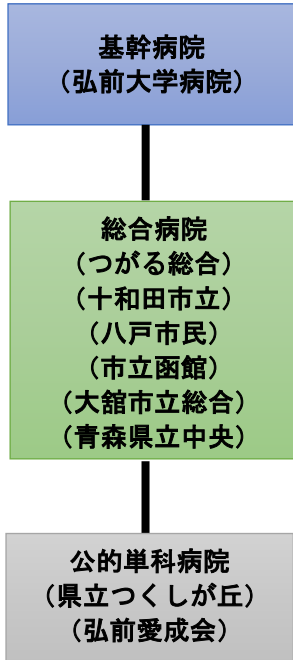
基幹病院の統括責任者と連携施設の指導責任者による委員会にて定期的にプログラム内容について討議し、継続的な改良を実施する。

4) FDの計画・実施

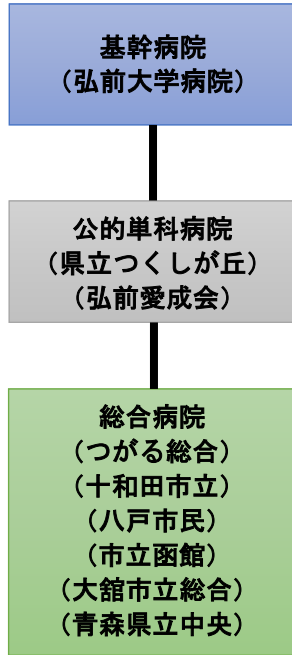
年1回プログラム管理委員会が主導し各施設における研修状況を評価する。

ローテーションのパターン

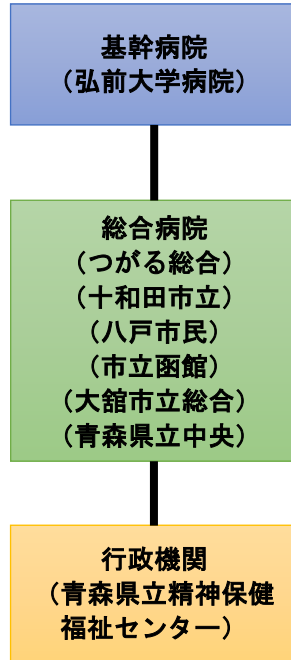
パターン A



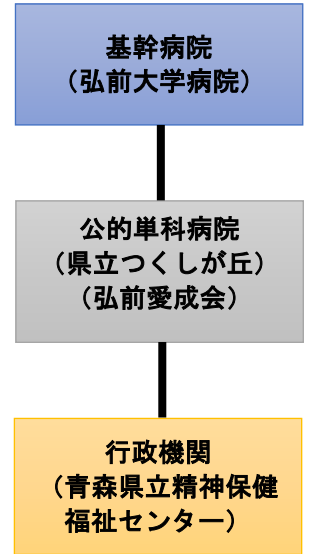
パターン B



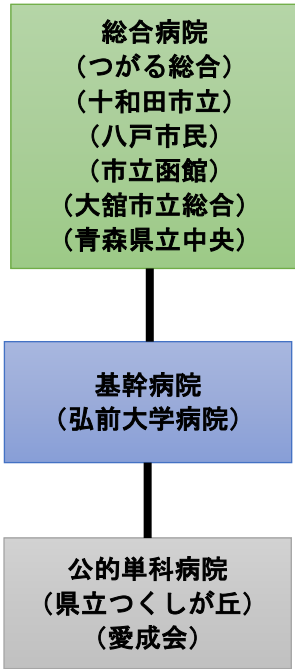
パターン C



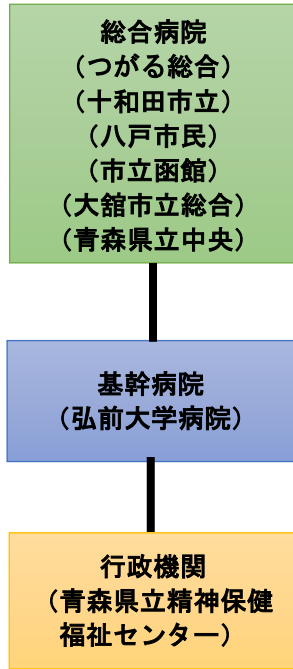
パターン D



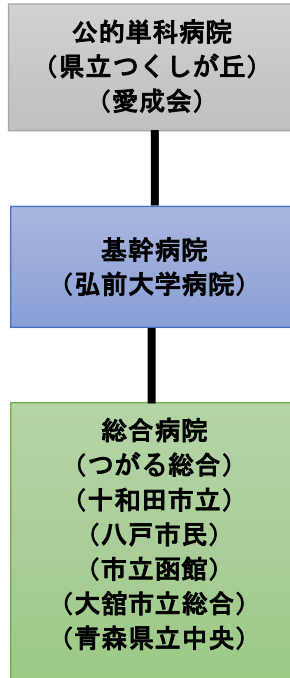
パターンE



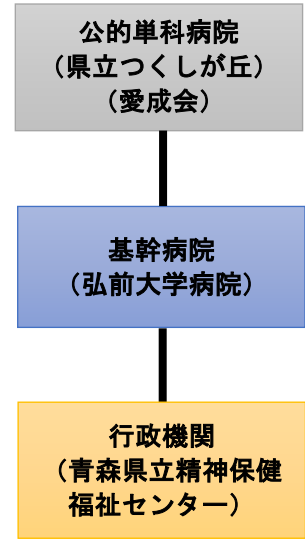
パターンF



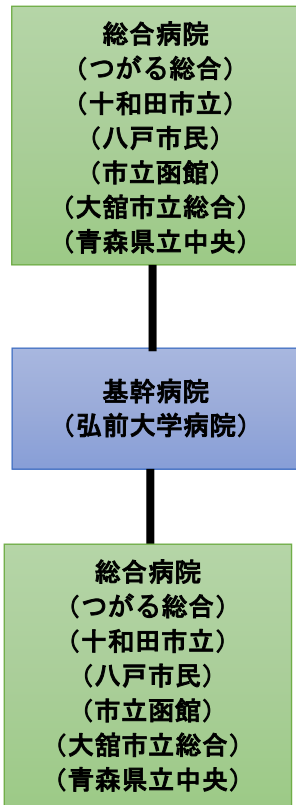
パターンG



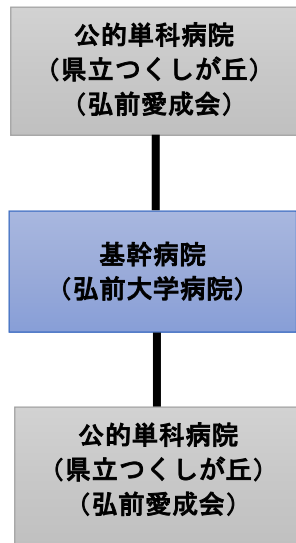
パターンH



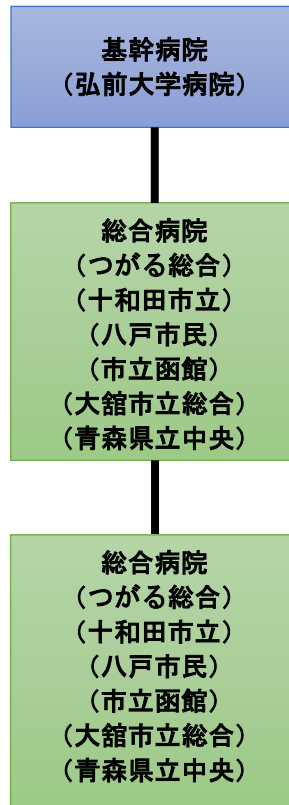
パターンH



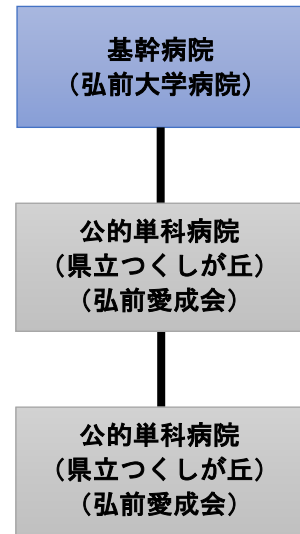
パターンI



パターンJ



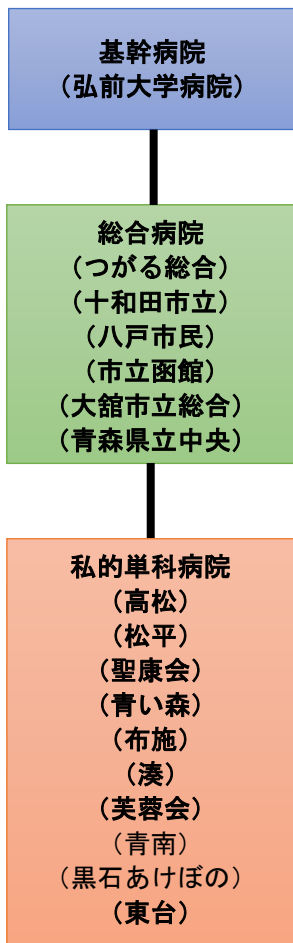
パターンK



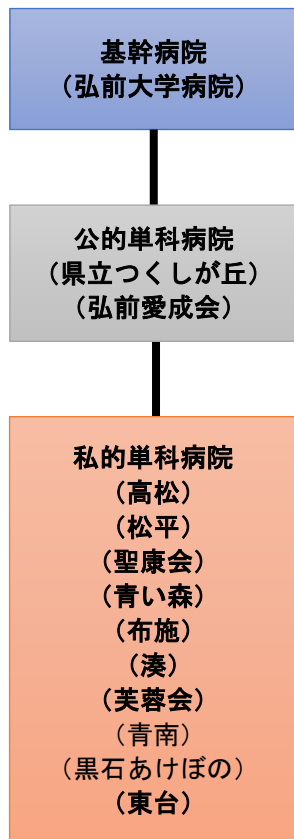
注)

パターンH、パターンI、パターンJ、パターンKは同系列の組み合わせであっても異なる病院で研修を受けること

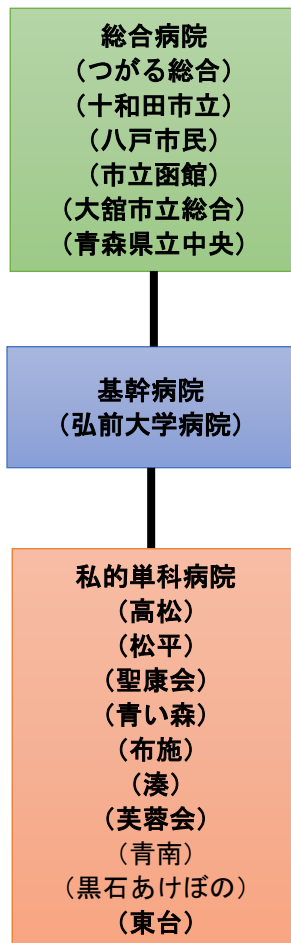
パターンL



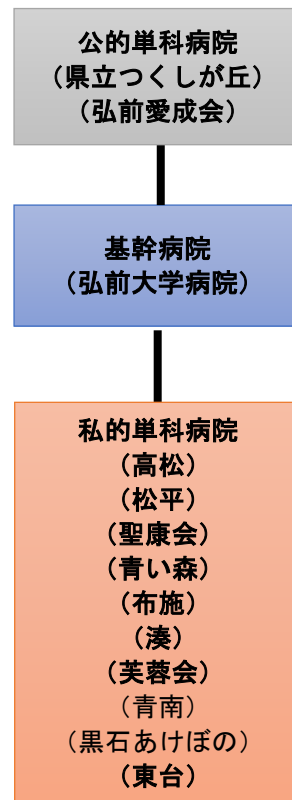
パターンM



パターンN



パターンO



週間スケジュール

①弘前大学病院

	月	火	水	木	金
8:00-8:30	朝カンファ			脳波判読会	
8:30-12:30	外来予診 リエゾン mECT	てんかん 外来 病棟業務	外来予診 リエゾン	病棟業務 リエゾン m	外来予診 リエゾン
13:30-16:00	病棟業務 グループミ ーティング	児童思春期 外来 病棟業務	病棟業務 グループミ ーティング	教授回診 病棟カン ファ	病棟業務 リエゾン
16:00-18:00	外来カン ファ	リエゾンカ ンファ	病棟業務	医局会 抄読会	病棟業務
18:00-19:30	セミナー			リサー チカン	

※いずれの施設においても、就業時間が40時間/週を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。原則として、40時間/週を超えるスケジュールについては自由参加とする。

②つがる西北五広域連合 つがる総合病院

曜日等	時間	事項
月曜日	AM 8:30 PM 13:00	外来診療（再来） 入院診療、救急患者対応
火曜日	AM 8:30 PM 13:00	外来診療（再来） 入院診療、救急患者対応
水曜日	AM 8:30 PM 13:00	外来診療（新患） 入院診療、救急患者対応
木曜日	AM 8:30 PM 13:00	外来診療（再来） 入院診療、救急患者対応
金曜日	AM 8:30 PM 13:00 PM 16:00	外来診療（新患） 入院診療、救急患者対応 カンファランス

③青森県立つくしが丘病院

	月	火	水	木	金
8:15~ 8:30	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ
8:30~12:15	外来業務 ショートケ ア	外来業務 ショートケ ア	外来業務 ショートケ ア	外来業務 ショートケ ア	外来業務 ショートケ ア
13:00~16:20	病棟業務 認知行動療 法 児童相談所	病棟業務 訪問看護 児童思春期 外来	病棟業務 発達障害 GW	病棟業務 回復セミナ ー 院長回診 施設往診	病棟業務 訪問看護 デイケア
16:20~16:45		症例検討 新患カンファ		医局会	
17:00~18:00	院内研修 (適宜)				

④弘前愛成会病院

	月	火	水	木	金
8:25~9:00	新患・新入 院カンファ レンス	新患・新入 院カンファ レンス	新患・新入 院カンファ レンス	新患・新入 院カンファ レンス	新患・新入院 カンファレン ス
午前	病棟運営会 議	病棟診療	外来診療 ECT	脳波判読会 病棟診療	外来診療 ECT
午後	外来診療 ECT	退院症例カ ンファレン ス	病棟診療	地域・在宅	病棟診療
	病棟診療	ECT			
16:30~	個別症例検 討	医局会 (1/ 月) 抄読会 (1/ 月) 講義 (随時)	個別症例検 討	個別症例検 討	個別症例検討

⑤高松病院

	月	火	水	木	金	土（隔週）
午前	外来診療	病棟診療	外来診療	認知症専門外来（予診、指導医診察陪席）	病棟診療	病棟診療 認知症カフェの参加（月1回）
午後	病棟診療、医局会	デイケア業務、地域相談業務陪席、施設往診陪席	病棟診療、病棟カンファレンス	診断会議、症例検討会、画像カンファレンス	個別指導、研修会、委員会	休日

⑥ 市立函館病院

	月	火	水	木	金
8時30分	打ち合わせ 外来診察（新患の予診と診察陪席・再来診察） 身体科病棟でリエゾン・コンサルテーション担当症例の診察				
13時	身体科病棟でリエゾン・コンサルテーション担当症例の診察				
16時30分	抄読会	緩和ケア カンファレンス	症例検討会		カンファレンス

⑦十和田市立総合病院

		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	8:30 ～	朝カンファレンス	朝カンファレンス	朝カンファレンス	朝カンファレンス	朝カンファレンス
	8:50 ～	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務
	12:30	リエゾン	リエゾン	リエゾン	リエゾン	リエゾン
午後	13:30 ～	昼カンファレンス	昼カンファレンス	昼カンファレンス	昼カンファレンス	昼カンファレンス
	13:50 ～	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
			集団精神療法			病棟カンファレンス

⑧ 松平病院

	月	火	水	木	金	土
午前	外来診療	デイケア	外来診療	休	外来診療	病棟診療
	病棟診療	アニマルセラピー	病棟診療		病棟診療	作業療法
午後	病棟診療	病棟診療	病棟診療	休	病棟診療	病棟診療
	入退院事前カンファ		入退院カンファ			
※院内感染防止対策委員会、医療安全対策委員会、行動制限最小化委員会、褥瘡対策委員会、栄養管理委員会、衛生委員会						
救急学習委員会、個人情報保護法対策委員会（毎月実施）						

⑨ 聖康会病院

曜日	時間	事項
月曜日	9:00	入院診療およびデイケア見学
	13:30	入院診療
火曜日	9:00	入院診療および外来診療（再来）
	13:30	入院診療
水曜日	9:00	入院診療およびデイケア見学
	13:30	入院診療
木曜日	9:00	入院診療および外来診療（新患）
	13:30	入院診療
	18:00	精神医学セミナー （弘前愛成会病院、月1回）
金曜日	9:00	入院診療および外来診療（再来）
	13:30	入院診療
	16:00	医局カンファレンス、文献抄読、講義
土曜日（第1,3,5）	9:00	入院診療および外来診療（新患）

⑩ 青い森病院

	月	火	水	木	金	土
8:30～	外来 病棟	外来 病棟	3病棟合同カンファ		外来 病棟	外来 病棟
13:00～	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟	新患カン ファ
15:30～	外来 病棟	2病棟カンフ ア	1病棟カンフ ア	外来 病棟	3病棟カンフ ア	

不定期で、薬品勉強会、研修会あり。

⑪ 青森県立精神保健福祉センター

	月	火	水	木	金
午前	外来診療(予 診、指導医診 察陪席など)	外来診療(予 診、指導医診 察陪席など)	カンファレ ンス	外来診療(予 診、指導医診 察陪席など)	外来診療(予 診、指導医診 察陪席など)
午後	デイケア業 務 相談業務	デイケア業 務 相談業務	研修会、 個別指導	発達障害シ ョートケア 業務	デイケア業 務 相談業務

⑫ 八戸市民病院

	月	火	水	木	金
8:15-8:30	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
8:30-9:00	外来・病棟 業務	外来・病棟 業務	外来・病棟 業務	外来・病棟 業務	外来・病棟 業務
9:00-10:00	外 来 新 患・病棟業 務	断酒会	外 来 新 患・病棟業 務	外 来 新 患・病棟業 務	外 来 新 患・病棟業 務
10:00-12:00	外来・病棟 業務	外来・病棟 業務	外来・病棟 業務	外来・病棟 業務	外来・病棟 業務
13:00-15:00	外来・病棟 業務	外来・病棟 業務	外来・病棟 業務	外来・病棟 業務	デイ・ケア
15:00-16:45	外来・病棟 業務	外来・病棟 業務	外来・病棟 業務	緩和ケア	外来・病棟 カンフ
17:30-18:30					医局会

⑬ 布施病院

曜日等	時間	事項
月曜日	AM 8:30	外来業務
	PM 13:00	入院業務
	PM 16:30	外来カンファレンス
火曜日	AM 8:30	入院業務
	PM 13:00	入院業務
		病棟カンファレンス
水曜日	AM 8:30	外来業務
	PM 13:00	入院業務
木曜日	AM 8:30	入院業務
	PM 13:00	入院業務
		病棟カンファレンス
金曜日	AM 8:30	外来業務
	PM 13:00	入院業務

⑭ 湊病院

	月	火	水	木	金
8:30~9:00	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ
9:00~12:00	外来業務	病棟業務	外来業務	病棟業務	病棟業務
12:00~13:00	医局会義				
13:30~17:00	外来業務	病棟業務	外来業務	病棟業務	病棟業務
17:00~18:00					症例検討会

⑮青森県立中央病院

	月	火	水	木	金
8時30分	打ち合わせ 外来診察（新患の予診と診察陪席・再来診察） 身体科病棟でリエゾン・コンサルテーション担当症例の診察				
13時	身体科病棟でリエゾン・コンサルテーション担当症例の診察				
16時30分	抄読会	緩和ケア カンファレンス	症例検討会		カンファレンス

⑯青南病院

	月	火	水	木	金
8:30~9:00	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ
9:00~12:00	外来業務	病棟業務	外来業務	病棟業務	病棟業務
12:00~13:00				医局会義	
13:30~17:00	外来業務	病棟業務	外来業務	病棟業務	病棟業務
17:00~18:00					症例検討会

⑰むつ総合病院

		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	8:30 ~	朝カンファ レンス	朝カンファ レンス	朝カンファ レンス	朝カンファ レンス	朝カンファ レンス
	8:50 ~	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務
	12:30	リエゾン	リエゾン	リエゾン	リエゾン	リエゾン
午後	13:30 ~	昼カンファ レンス	昼カンファ レンス	昼カンファ レンス	昼カンファ レンス	昼カンファ レンス
	13:50 ~	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
			集団精神療 法			病棟カンフ アレンス

⑱黒石あけぼの病院

	月	火	水	木	金
8:25~9:00	新患・新入院カンファレンス	新患・新入院カンファレンス	新患・新入院カンファレンス	新患・新入院カンファレンス	新患・新入院カンファレンス
午前	病棟運営会議	病棟診療	外来診療	脳波判読会 病棟診療	外来診療
午後	病棟診療	退院症例カンファレンス	病棟診療	地域・在宅	病棟診療
16:30~	個別症例検討	医局会（1/月） 抄読会（1/月） 講義（随時）	個別症例検討	個別症例検討	個別症例検討

⑲大館市立病院

曜日等	時間	事項
月曜日	AM 8:30 PM 13:00	外来診療（再来） 入院診療、救急患者対応
火曜日	AM 8:30 PM 13:00	外来診療（再来） 入院診療、救急患者対応
水曜日	AM 8:30 PM 13:00	外来診療（新患） 入院診療、救急患者対応
木曜日	AM 8:30 PM 13:00	外来診療（再来） 入院診療、救急患者対応
金曜日	AM 8:30 PM 13:00 PM 16:00	外来診療（新患） 入院診療、救急患者対応 カンファランス

⑳東台病院

	月	火	水	木	金
8:15~ 8:30	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ
8:30~12:15	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務
13:00~16:20	病棟業務	病棟業務 訪問看護	病棟業務	病棟業務 回復セミナー — 院長回診	病棟業務
16:20~16:45		症例検討 新患カンファ		医局会	
17:00~18:00	院内研修 (適宜)				

年間スケジュール

①弘前大学病院

4月	オリエンテーション SR1 研修開始 SR2・3 前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告提出 研修医グラウンドラウンド（毎月開催）
5月	弘前市精神科医会参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加 弘前大学精神医学講座同窓会参加
7月	日本うつ病学会参加（任意） 北東北精神科医会参加
8月	
9月	弘前市精神科医会 参加 日本生物学的精神医学会参加（任意）
10月	SR1・2・3 研修中間報告書提出 教室研究会参加 日本児童青年医学会参加（任意） 日本認知療法学会参加（任意） 日本臨床精神神経薬理学会参加（任意） 東北精神神経学会参加・演題発表
11月	青森県精神科医会 参加 総合病院精神医学会参加（任意）
12月	弘前市精神科医会 参加
1月	研修プログラム管理委員会開催
2月	日本不安症学会参加（任意）
3月	SR1・2・3 研修報告書 研修プログラム評価報告書の作成 日本統合失調症学会（任意）

②つがる西北五広域連合 つがる総合病院

4月	オリエンテーション
5月	市精神科集団会参加 五所川原精神科医会参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年医学界参加（任意）
7月	日本うつ病学会参加（任意）
8月	
9月	市精神科集団会参加
10月	日本児童青年精神医学会参加（任意）
11月	総合病院精神医学会参加（任意）
12月	五所川原精神科医会参加
1月	
2月	市精神科集団会参加
3月	

③青森県立つくしが丘病院

4月	オリエンテーション
5月	診療部業務検討 市精神科医会
6月	日本精神神経学会学術総会
7月	診療部業務検討 市精神科医会
8月	
9月	中間評価 市精神科医会
10月	東北精神神経学会
11月	県精神科医会 市精神科医会
12月	診療部業務検討
1月	市精神科医会

2月	診療部業務検討
3月	総括評価 市精神科医会

④弘前愛成会病院

4月	オリエンテーション、弘前地区精神科医会、精神医学セミナー
5月	精神医学セミナー
6月	日本精神神経学会学術総会、精神医学セミナー
7月	精神医学セミナー
8月	精神医学セミナー
9月	弘前地区精神科医会、精神医学セミナー
10月	東北精神神経学会、東北精神保健福祉学会、精神医学セミナー
11月	日本精神科医学会学術大会（任意）、精神医学セミナー
12月	弘前地区精神科医会、精神医学セミナー
1月	精神医学セミナー
2月	精神医学セミナー
3月	精神医学セミナー、研修プログラム評価報告書の作成

⑤高松病院

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会総会参加 日本老年精神医学会参加
7月	認知症疾患医療センター研修会参加
8月	
9月	日本認知症予防学会参加
10月	東北精神神経学会総会参加
11月	認知症疾患医療センター研修会参加
12月	
1月	

2月	
3月	研修報告会
その他	医師会等が開催する研修会に随時参加

⑥市立函館病院

4月	新入医局員オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加 弘前大学神経精神医学教室同窓会講演会参加
7月	緩和ケア研修会参加
8月	
9月	
10月	
11月	日本総合病院精神医学会総会参加（任意）
12月	
1月	
2月	
3月	研修プログラム評価報告書の作成

⑦十和田市立総合病院

精神科 年間予定

4月	オリエンテーション
5月	上十三精神科医会参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年医学会参加（任意）
9月	上十三精神科医会参加
10月	日本児童青年医学会参加（任意）
2月	上十三精神科医会参加
3月	県精神科医会参加

	研修プログラム評価報告書の作成
その他	医療観察法ケア会議参加（年数回） 集団精神療法（各週） 児童相談所（月1回） アウトリーチ（保健センターと協同で随時） 訪問診療（随時） 認知症地域啓蒙活動（年数回） 市役所・保健センターでの もの忘れ相談、心の相談（月1回）

⑧松平病院

4月	オリエンテーション 八戸精神科医会参加
5月	八戸精神科医会参加 家族教室
6月	日本精神神経学会学術総会参加 八戸精神科医会参加 院内症例発表会
7月	八戸精神科医会参加 家族教室
8月	八戸精神科医会参加
9月	八戸精神科医会参加 家族教室
10月	東北精神神経学会参加 八戸精神科医会参加
11月	八戸精神科医会参加 家族教室

12月	
1月	八戸精神科医会参加 家族教室
2月	東北神経心理懇話会参加 八戸精神科医会参加
3月	研修プログラム評価報告書作成 家族教室

⑨ 聖康会病院

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	弘前地区精神科医会参加
8月	
9月	
10月	東北精神神経学会参加（演題発表含む）
11月	青森県精神科医会参加 弘前地区精神科医会参加
12月	
1月	弘前地区精神科医会参加
2月	
3月	総括的評価 研修プログラム評価報告書の作成

⑩ 青い森病院

4月	
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会
7月	

8月	
9月	日本自殺予防学会総会 カウンセリングワークショップ
10月	日本精神科病院協会青森県支部臨時総会
11月	日本臨床精神神経薬理学会
12月	
1月	
2月	自死遺族支援研修
3月	

⑪ 青森県立精神保健福祉センター

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会総会参加
7月	地区精神科医会参加
8月	
9月	中間評価の実施
10月	東北精神神経学会参加(演題発表を目標に)
11月	地区精神科医会参加
12月	
1月	日本社会精神医学会参加、地区精神科医会参加
2月	
3月	研修報告会

⑫ 八戸市民病院

4月	オリエンテーション
5月	八戸市精神科医会

6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	八戸市精神科医会
8月	
9月	八戸市精神科医会
10月	八戸市精神科医会 東北精神神経学会参加・演題発表
11月	八戸市精神科医会
12月	
1月	八戸市精神科医会
2月	
3月	総括的評価 研修プログラム評価報告書の作成

⑬ 布施病院

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
	日本老年精神医学会参加（任意）
7月	
8月	夏祭り
9月	
10月	日本児童青年精神医学会参加（任意）
	東北精神神経学会参加
11月	
12月	クリスマス会
1月	
2月	

3月	
----	--

⑭ 湊病院

4月	オリエンテーション
5月	日本自殺予防学会参加（任意）
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年医学会参加（任意）
7月	
8月	
9月	
10月	精神保健福祉全国大会参加（任意）
11月	日本てんかん学会学術総会参加（任意）
12月	
1月	
2月	
3月	研修プログラム評価報告書の作成

⑮ 青森県立中央病院

4月	新入医局員オリエンテーション
5月	青森市精神科医会参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加 弘前大学神経精神医学教室同窓会講演会参加
7月	緩和ケア研修会参加
8月	
9月	
10月	
11月	日本総合病院精神医学会総会参加（任意）
12月	青森県精神科医会参加
1月	
2月	

3月	研修プログラム評価報告書の作成
----	-----------------

⑩青南病院

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会総会参加 日本老年精神医学会参加
7月	認知症疾患医療センター研修会参加
8月	
9月	日本認知症予防学会参加
10月	東北精神神経学会総会参加
11月	認知症疾患医療センター研修会参加
12月	
1月	
2月	

⑪むつ総合病院

4月	新入医局員オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加 弘前大学神経精神医学教室同窓会講演会参加
7月	
8月	
9月	
10月	緩和ケア研修会参加
11月	日本総合病院精神医学会総会参加（任意）
12月	青森県精神科医会参加
1月	
2月	

3月	研修プログラム評価報告書の作成
----	-----------------

⑩黒石あけぼの病院

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	弘前地区精神科医会参加
8月	
9月	
10月	東北精神神経学会参加（演題発表含む）
11月	青森県精神科医会参加 弘前地区精神科医会参加
12月	
1月	弘前地区精神科医会参加
2月	
3月	総括的評価 研修プログラム評価報告書の作成

⑪大館市立総合病院

4月	オリエンテーション
5月	市精神科集団会参加 大館精神科医会参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年医学界参加（任意）
7月	日本うつ病学会参加（任意）
8月	
9月	市精神科集団会参加
10月	日本児童青年精神医学会参加（任意）
11月	総合病院精神医学会参加（任意）

12月	大館精神科医会参加
1月	
2月	市精神科集団会参加
3月	

⑳ 東台病院

4月	オリエンテーション
5月	市精神科集団会参加 大館精神科医会参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年医学界参加（任意）
7月	日本うつ病学会参加（任意）
8月	
9月	市精神科集団会参加
10月	日本児童青年精神医学会参加（任意）
11月	総合病院精神医学会参加（任意）
12月	大館精神科医会参加
1月	
2月	市精神科集団会参加
3月	